

日本発の学術情報の計量的分析

－ Journal Citation Reports に収載される医学雑誌を中心に －

城山泰彦 (KIYAMA Yasuhiko)

順天堂大学 本郷・お茶の水キャンパス学術メディアセンター

I. 背景と目的

近年、世界的な論文数および雑誌数の増加に伴い、日本の学術発信力の低下が懸念されている。具体的には、Web of Science (WoS) における日本の国別論文数は、2000 年代前半の世界 3 位から、2021 年以降は 8 位に後退した。また、Journal Citation Reports (JCR) における日本の収載雑誌数も、2000 年代の世界 5 位から 2024 年版では 13 位 (364 誌、1.6%) に下落した。本発表では、日本から発行される JCR 収載誌を計量的に分析することで現状を把握し、国際的な影響力を高めるための方向性を検討することを目的とする。

II. 調査方法と調査項目

1980 年から 2024 年を対象に、WoS、JCR、および研究評価ツール InCites Benchmarking & Analytics を用いて計量的な分析を行った。調査項目は、日本発の雑誌数、学問分野、ジャーナル指標 (Journal Impact Factor (JIF) 値や四分位指標 (Quartile) 等)、国際共著文献の割合、被引用状況等とした。さらに、日本の医学分野の動向を把握するため、日本医学会分科会に所属する学会が発行に関与している欧文誌を対象とした調査を行った。

III. 結果と考察

2024 年版の JCR 収載誌数上位 20 개국における、四分位指標を分析した (下図)。各学問分野において JIF の上位 25% にあたる「Q1 誌」の割合は、中国が最も高く、大手出版社を擁するオランダ、英国、米国がそれに続いた。日本は 364 誌中 35 誌 (9.6%、重複を含む 41 学問分野) が Q1 誌であった。

日本医学会分科会所属の 145 学会が関与する欧文誌は、国内・国際共同を含めて、103 学会の 113 誌を確認した。発行形態は、学会 33 誌 (29.2%)、商業出版社との連携・委託 80 誌 (70.8%) であった。JCR の収載は 102 誌 (90.3%) で、Q1 誌は 17 誌 (15.0%) を確認した。日本医学会分科会からの Q1 誌の割合は、国内平均より高いが、国際水準と比べて限定的であった。

現状の把握と、国際的な影響力を向上させるための方策を検討する。

